

国際交流員の
活動日誌

vol.44



Information

市政だより英語ダイ
ジェスト版を市役所、
総合支所、保原駅、梁
川駅で配布しています。

「丼物」 Rice Bowls

米国では11月は感謝祭の月です。その日の伝統的な夕食に七面鳥を食べ、惣菜としてファルスという料理やグレービーソース、クランベリーも食べます。実際は、それぞれはあまりおいしくないと思いますが、皿一枚に山盛りのにのせると味が混ざっておいしいです。和食の食事ならそれぞれの食べ物は別の皿から食べる事が多いですが、米国育ちの僕は味を混ぜるのが好きです。僕の好きな和食は丼物です。

牛丼、カツ丼、海鮮丼、親子丼―和食には丼物が多くて、もしかして日本の食材は何でも丼物にできるのではないかと思えます。お米にのせると、よりおいしくなるので、丼で食べる事が楽しいです。他の皿よりも丼は手で持ちやすく、食べる事が効率的です。そして、丼を手で持つ事から感謝の気持ちが出やすくなると思えます。実は米国では皿を口まで持ち上げる事は失礼ですが、僕は里帰りする時よく玄米に晩ご飯の残りをのせて、箸と丼で食べます。和式な食べ方で丼を持っている僕は家族の迷惑になるかもしれませんが、皆は我慢してくれませう。将来はいつか、米国で感謝祭の夕食を食べる機会があれば、玄米に七面鳥や克蘭ベリーを載せる感謝祭丼を作って、食べてみたいと思います！

地域の魅力
ふる里再発見企画展の展示品
～アイスキャンデー木箱～

企画展

救出された文化財

10/3(土)～1/25(月)まで
保原歴史文化資料館

昭和40年代半ば(1970年)頃まで、アイスキャンデーの引き売りは夏の風物詩でした。アイスキャンデーはアンモニアを冷媒に、甘味を加えた色付きの水を円柱状に凍らせて製造しました。売人は製造元からアイスキャンデーを仕入れ、自転車の荷台に木箱を積んで、水色の小旗を目印に立て、移動しながら近隣を廻りました。遠くから聞こえる振り鐘の音色が販売の合図です。木箱一杯のアイスキャンデーが完売すれば、売人は再び製造元に戻って補充しました。

写真は高さ40cm・幅52cm・奥行33cmの木箱です。側面に「アイスキャンデー 宗川冷菓部」「アイスキャンデー 宗川」と書かれています。蓋は蝶番ちようつがひで半開きとなり、中央に小さな開閉口が付いています。蓋を半開きにして、宗川冷菓部から仕入れたアイスキャンデーを収納したのです。販売の時には開閉口からアイスキャンデーを取り出しました。内側には断熱材の発砲スチロールを貼り付け、保冷効果を高めています。売人は木箱を積んだ自転車を引いて、梁川町とその周辺を売り歩いたのでしょう。今では、いつでも、どこでも、好きな時にアイスキャンデーを買うことができなくなりました。また、自宅の冷凍庫に保存することもできません。夏の風物詩は無くなりましたが、アイスキャンデー木箱には、梁川町に暮らした人々の記憶が詰まっています。